

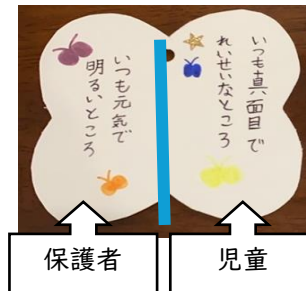
体験活動参加型+在宅取組型(小学校)

学校名等	関ヶ原町立関ヶ原小学校
実施日時	令和5年6月~8月
会場	各家庭・関ヶ原ふれあいセンター(ふれあいギャラリー)
参加人数	全校児童対象(214名)
学習課題(分野)	① 「親子で認め合い羽ばたこう」(基本的な生活習慣、自立心、挨拶及び礼儀、思いやり、家族の大切さ) ② 「親子で自転車点検をしよう」(基本的な生活習慣、自立心、自制心、善悪の判断、命の大切さ、家族の大切さ、社会のルール)
運営者の願い	① 親子で認め合うことで、家族の大切さに改めて気づき、相手を思いやる心を養ってほしい。 ② 夏休み前に、親子で自転車点検を行い、安全に乗ることのできる自転車かどうか確かめると共に、親子で交通安全について話し合う機会としてもらいたい。

学習の内容

<親子のコミュニケーションの機会を増やす活動の工夫>

- ① 親と子が直接、互いのよいところを伝え合う機会はなかなかない。「家庭教育学級の取組だから、やってみようか」という軽い気持ちで、「見える化」してもらう活動を仕組んだ。蝶のカードに、お互いの自慢(よいところ)を記入して、カードを完成させた。
- ② 毎年、小学校から保護者へお願いする形で行なっている自転車点検。この取組も「親子で話し合いながら活動する家庭教育学級にぴったり!」ということで、点検カードを配付し、各家庭で交通安全について話し合いながら自転車点検を行ってもらうことにした。



<+αの工夫>

- ① 全校児童が提出した蝶のカードを大きい用紙に貼り、完成。蝶が大空を羽ばたいた。夏休み中には、多くの観光客も訪れる関ヶ原ふれあいセンター内に展示してもらい、町内外の多くの方に見ていただくことができた。
- ② 「親子で自転車点検をしましょう」と取組を説明したところで、子供自身にやる気がなければ、うまくいかない。そこで、家庭教育学級では自転車に貼ることのできる『自主点検合格シール』を作成した。保護者と一緒に点検してカードを提出した児童には、このシールを渡した。効果は絶大で、特に低中学年児童には好評であった。



<保護者の感想より>

- ① 親子でふれあいセンターに蝶を見に行きました。たぶん町外の方だと思うのですが、お二人で掲示を見ながら、「こういう取組をしている学校っていいよねえ。」と話してみえました。子供も私にもっこり。とても嬉しくなりました。
- ② 子供は自転車に貼るシールをもらい、大喜びでした。ありがとうございました。早速自転車に貼り、ヘルメットを被り、「行ってきます!」と今日も元気に遊びに行きました。



家庭教育学級の幅を広げる活動

ここ数年、一同に会さなくてもできる取組について家庭教育委員会を中心に考えてくださっている。掲載の取組ならば、「全校」で、「都合のよい時間」に、「気軽に」取り組むことができる。実際に、今回の取組は、100パーセントに近い保護者の協力を得ることができた。



活動を楽しむ

家庭学級の取組に多くの保護者が賛同してくださっている。みなさんの「やってみよう」「楽しもう」という前向きな姿勢が、「やってよかった」「楽しかった」となり、次の活動に繋がっており、ありがたい。



「見える化」大切さ

互いのよさや、一緒にできたことを文字に起こしたり、シールを貼ったりして『見える化』することで、コミュニケーションをより深めることができると感じた。ちょっとした工夫だが、その工夫がとても大切だということを学んだ。

